

栽培化への道

—明日の水産業を拓く増養殖推進事業—



▲天草郡倉岳町倉岳実験漁場

本県は有明海・八代海など広大な内湾ならびに島しょ、入江に富む天草周辺海域を有し、河川湖沼等内水面にも恵まれています。しかし、近年漁場の汚染増大（特に水俣病発生）、他産業の進出にもなる漁場のそう失などの環境悪化によって厳しい情勢に直面しています。そこで漁場の保全を重視しながら水産業自体の中にある生産の不安定性から脱却して漁獲の安定と生産性の向上につとめ、漁業者の所得の向上を図ることに積極的に取り組むことが基本的に大切です。

そのため、栽培漁業の推進と基盤の整備を柱として、増養殖事業の推進、種苗センターの設置と大量放流、大規模増養殖場の開発を意欲的に展開することが必要ですが、これら施策は科学的な技術の裏付けがあつて初めて実を結ぶものですので水産試験場がこれまで培った個々の栽培化への技術をこゝで集大成し、しかも漁場で実証しようとする意欲的な事業（試験）がこの増養殖推進事業です。

▽見直される沿岸漁業

水産業の動向

乱獲だ、汚染だ、水銀だとさわがれながらも日本の水産業は生産量・生産額とも順調な伸びを示しています。すなわち、昭和四十七年には生産量は千二一万吨、生産額では一兆一千億円を超えるまでに成長しました。

中であつて沿岸漁業は比較的高級魚が多いため、近年著しく伸びている海面養殖業を加えると、その比重は高く、昭和四十七年についていえば、生産量が全面漁業の二十五%（二千五百四十九

ン）、金額では実に三八・九%（四千六百九十一億）に達しています。（表一参照）

ひるがえって、本県の生産量および金額をみると表二のとおりです。本県の場合、生産量を左右するアジ、イワシ類の不漁、貝類の不漁、また養殖業ではノリの不作が影響してこの間生産量は低下しましたが、幸い魚価の高騰に支えられ各年の金額は順調な伸びを示しています。

このような著しい漁業の成長のなかで漁業技術の果たした役割りは見のがすこ

とはできません。特に沿岸の養殖技術の進歩はすばらしいものがあり、本県ではクルマエビ、ハマチ、タイ、ノリ、ワカメ等の高級水産物が沿岸漁民にもたらした恩恵はかりしれないものがあります。

しかし、このように国内経済の高度経済成長下に発展した水産業も、公害と、物価高と、資源の不足と、諸外国からの日本漁業締め出しという暗いかげが一刻一刻近まりつつあり、また現実の問題となつていきます。

このように危機に立つた日本の水産業の今後を考えると、最後に沿岸海域の再開発ということにもどつてこざるを得なくなりそうです。

政府は昭和四十六年に海洋水産資源開発促進法を、昭和四十九年に沿岸漁場整備開発法を制定しましたが、これらはまさに当を得た措置といえます。

昔から沿岸は日本の漁業にとって基本的に重要な水域です。しかし沿岸資源がはたして開発の余地を残しているのだろうか。

表1 沿岸漁業生産量、生産金額の推移（全国）

生産量(千トン)	42年		45年		46年		47年		47/42		47/46	
	値	%	値	%	値	%	値	%	%	%	%	%
沿岸漁業計	2,482	100.0	2,440	100.0	2,544	100.0	2,549	100.0	102.7	100.2		
漁船漁業	1,766	(71.2)	1,633	(66.9)	1,672	(65.7)	1,639	(64.3)	92.8	98.0		
定置網漁業	246	(9.9)	258	(10.6)	263	(10.3)	262	(10.3)	106.5	99.6		
海面養殖業	470	(18.9)	549	(22.5)	609	(24.0)	648	(25.4)	137.9	106.4		
生産金額(億円)	2,831	100.0	3,867	100.0	4,235	100.0	4,691	100.0	165.7	110.8		
沿岸漁業計	2,831	100.0	3,867	100.0	4,235	100.0	4,691	100.0	165.7	110.8		
漁船漁業	1,462	(51.7)	2,097	(54.2)	2,346	(55.4)	2,479	(52.8)	169.6	105.7		
定置網漁業	295	(10.4)	417	(10.8)	515	(12.2)	504	(10.7)	170.8	97.9		
海面養殖業	1,074	(37.9)	1,353	(35.0)	1,374	(32.4)	1,708	(36.4)	159.0	124.3		

(農林統計)

表2 熊本県漁業生産量・生産金額 43~47年

項目	年				
	43年	44年	45年	46年	47年
総数(千円)	11,184,406	10,976,521	11,735,111	13,121,658	14,402,899
一般海面漁業生産量(トン)	75,962	75,130	77,278	70,275	58,742
金額(千円)	5,850,674	6,203,385	6,675,167	8,417,691	8,852,053
海面養殖業金額(千円)	4,754,014	4,176,136	5,059,944	4,713,967	5,550,846

(農林統計)

▽栽培漁業推進と基盤の整備

事業推進のための三つの試み

増養殖推進事業

本事業の目的は漁業者の所得向上と国民の食糧確保にあります。試験内容は

- (1) 養殖近代化試験(2) 資源培養播種放流試験(3) 栽培漁場保全管理試験の三項目からなつており、平易に表現すると、池作り、これを基盤として魚を作り、育て、採るといふ「栽培漁業」実現のための試験調査です。

期間は昭和四十八年度から五十年年度までの三ヶ年計画です。

以下それぞれの項について説明することにします。

管理であり得る。このためには漁業制度の改革、強化もあり得ることです。

第三に適正規模の養殖業の推進と、最大の持続的漁獲を維持するための資源水準引上げのために資源培養型漁業が行なわれる必要があります。

水試はこのような観点にたち、国の沿岸漁場整備開発事業、特定水産動物育成事業、栽培センター建設事業、第二次構造改善事業と関連を持たせつゝ増養殖推進の事業を進めています。

一、養殖近代化試験

昭和四十八年十月に天草郡倉岳町製薬浦地先に本試験のための実験漁場を設けました。

本県の海産魚類養殖業の経営体数と地区別分布はほとんどが不知火海区に存在しています。

この養殖の主体であるハマチ、マダイの放養尾数も年々飛躍的に増加し、昭和四十九年にはマダイ放養尾数二百五十万尾、ハマチ放養尾数百万尾に達し、(表3、表4参照)金額ではノリ、真珠養殖につぐ地位を確保しました。

しかし、この養殖業の隘路は、(一)種苗